

朝日 健太郎



国政レポート Vol.7



東日本大震災から10年が経過しました。復興の歩みを止めることなく、被災地域へ寄り添いながら支援を続けていく所存です。未だ新型コロナウイルス感染症が社会に大きな影を落としています。医療・介護等に従事する方々はじめ、すべてのエッセンシャルワーカーの皆様へ改めて敬意と感謝を申し上げます。「新型コロナウイルス収束」と「経済の再生」、この両輪を力強く推し進めていかなければなりません。支援者の皆様へ感謝しつつ、お一人お一人の声に対し真摯に向き合いながら、日々邁進して参ります。

106兆円超の予算が成立

新型コロナウイルスの克服に向けた対策費を含む一般会計総額106兆6097億円の新年度予算が成立しました。「感染防止、経済再生、財政健全化」のバランスを取ることが最も難しい予算編成でありましたが、「中長期課題を見据え、着実に対応を進めていくための予算」を成立させることが出来ました。これにより、令和2年度第3次補正予算と一体の「15ヶ月予算」を執行することで、切れ目なく景気の下支えを行って参ります。

令和3年度予算の主なポイント

感染拡大防止

予期せぬ状況の変化に備え、本年度もコロナ予備費5兆円を措置。3次補正予算で病床・宿泊療養施設の確保、新型コロナワクチン接種体制の整備・接種等を措置。感染症危機管理体制・保健所体制の整備・感染症対策のための診療報酬の臨時的措置・医療機器の国内生産能力の増強等感染拡大の防止に万全を期す。

グリーン社会の実現

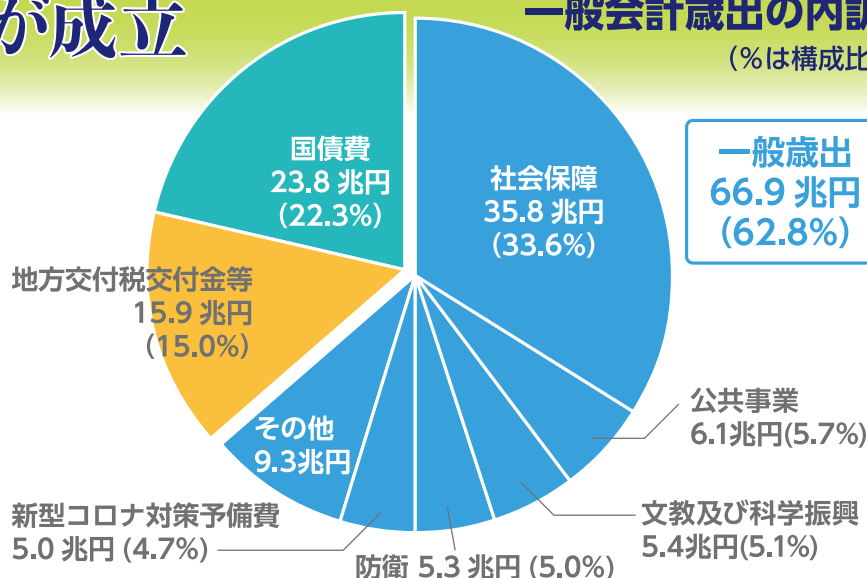
野心的な二酸化炭素の排出削減に取り組む企業に対する成果連動型の低利融資制度の創設(今後3年間で1兆円の融資規模)やESG投資の呼び込み支援を実施。再エネ・省エネ等の研究開発・導入を支援。3次補正予算においても、カーボンニュートラルに向けた革新的な技術開発等を支援。

防災・減災

公共事業について安定的な予算を確保(6兆695億円)。その中で、流域全体での治水対策や新技術を活用した老朽化対策など、防災・減災、国土強靱化への重点化を推進。

一般会計歳出の内訳

(%は構成比)



デジタル社会の実現

官民の高度専門人材を結集し500名規模体制のデジタル庁を設置。情報システム予算の一括計上を進め、政府全体の情報システムを一元的に管理。市町村の体制整備への支援を通じマイナンバーカードの取得促進。運転免許証とマイナンバーカードの一体化を推進。「教育のデジタル化」の観点から、デジタル教科書の普及(22億円)、オンライン学習システムの全国展開(7億円)等を推進。

少子化対策

子育て世代等の希望の実現に向けた少子化対策を推進(「新子育て安心プラン」に基づく保育の受け皿の整備(602億円)、不育症の検査・がん治療に伴う不妊に係る支援(23億円)等)。3次補正予算においても、不妊治療費用を大幅拡充。

活力ある地方創り

地域活性化の自主的・先導的な取組を支援する「地方創生推進交付金(1,000億円)」における移住支援事業を拡充。企業・自治体のマッチング支援を行う「地方創生テレワーク推進事業(1.2億円)」等により、地方へ人や仕事の流れを拡大。

新型コロナウイルス 関連情報

コロナ禍から国民の皆様の命を守り抜き、「安心」を取り戻すためにあらゆる対策を講じて参ります。新型コロナウイルスワクチン接種については皆様に速やかに安全で有効なワクチンを届けられるよう全力を尽くします。また、収入の減少や失業などにより日常生活の維持が困難となっている方々や事業者の皆様への支援策も拡充しておりますので、下記サイトもご参照ください。

ワクチンについて



各種支援策
のご案内



総力を結集し勝利へ

今年は「東京都議会議員選挙」と「衆議院議員選挙」が行われます。「政治は国民のもの」との立党の初心を改めて肝に銘じながら、同志たちが立候補致します。我々の政策、政治に対する熱意を皆様にご理解頂けるよう自民党一丸となり突き進んで参りますので、力強いご支援を何卒宜しくお願い致します。



国土交通大臣政務官活動

就任以降、全国の自治体から日々たくさんのご要望が寄せられます。私が担務する国土・水管理では、水害への備えや被災箇所への復旧復興に関して数多くの声が届きます。近年の頻発化・激甚化する災害への備えは待ったなしです。これまでの知見に基づく対応や備えだけではなく、今後想定される気象のデータを基準に、整備計画を立てる時代になっています。国交省の使命でもある「国民の命と暮らしを守るための国土整備」を確実に進めて参ります。3月に2016年熊本地震からの復興の象徴でもある阿蘇大橋の開通式に出席しました。今後も、被災地の復旧復興とさらなる発展に全力を尽くします。



政務官として各委員会等で答弁



東京都砂防協会からの要望



全国各地を視察



国道325号阿蘇大橋ルート開通式

朝日 健太郎 プロフィール

Kentaro Asahi Profile

1975年熊本県生まれ。鎮西高校在学中にバレーボール日本代表に初選出されて以降、法政大学～サントリー株式会社で在職中にわたり代表メンバーとして活躍。Vリーグでは3連覇に貢献。2002年ビーチバレーボールに転向し、2008北京五輪、2012ロンドン五輪に出場し、日本男子史上初の勝利を挙げる。競技引退後、NPO法人日本ビーチ文化振興協会理事長に就任し、選手時代からのライフワークであった日本の砂浜海岸の整備や、はだし文化の啓発に取り組む。同時にスポーツキャリアを活かしスポーツコメンター、番組MCも務める。また、ITコンサルタント会社に席をおき、中小企業の経営支援や社内研修、採用などを実践する。早稲田大学大学院社会人修士課程へ進み、スポーツ産業の育成を通じた経済発展への問題意識を得る。2016年参議院選挙にて初当選。

- 国土交通大臣政務官
- 参議院国土交通委員会 委員
- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会実施本部事務局次長 港湾議員連盟 自動車議員連盟
トラック輸送振興議員連盟 再生可能エネルギー普及拡大議員連盟 医療政策研究会 公共工品質確保に関する議員連盟
小規模企業を支援する参議院の会 自由民主党生活衛生議員連盟 自民党タクシー・ハイヤー議員連盟 栄養士議員連盟
自民党行政書士制度推進議員連盟 国民歯科問題議員連盟 etc. 令和3年4月12日現在

朝日健太郎の活動をSNS、ホームページにて紹介しています。

自由民主党 党員募集のご案内

朝日健太郎が所属する自由民主党は、多くの党員の皆様に支えられて運営されています。党費というかたちで資金的に支えていただいたり、選挙のときには応援をお願いしています。党員限定の楽しいイベントや勉強会もあり、総裁を選ぶ投票にも参加していただいています。党員になって、朝日健太郎と自由民主党を支えてください！ご入党いただける方は「朝日健太郎事務所」までご連絡ください。

朝日健太郎公式SNS

お気軽にフォローお願いします！

